

今だからこそ!

# ペットの防災を考えよう

資料提供・監修 認定NPO法人えひめイヌ・ネコの会

## 居住地域の防災計画を調べよう

各自治体の「地域防災計画」の中で、ペットについての対応を確認しよう。  
※愛媛県地域防災計画「第22章 動物の管理」では…  
災害の発生に伴う動物の適正な飼育及び保管は、その所有者又は占有者が行うべきものではあるが、県・市町及び県民は協力して動物の保護・危害防止に努める。

## 家族でいろいろな状況話し合おう

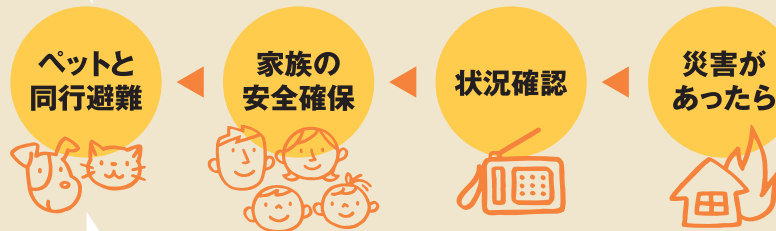
- ・家族全員が家にいるとき
- ・家に一人しかいないとき
- ・車にペットを乗せているとき
- ・ペットを散歩させているとき
- ・家にペットしかいないとき



## 避難

# 必ず ペットと一緒に 避難する

災害が  
起こったら、  
まずどう動く？



### ○ペットと一緒に避難する

小型犬や猫はキャリーバッグに入れ、中・大型犬はリードを着け、シューズを履かせる。

### ×とりあえずペットは残して人間だけ避難し、後で迎えに行く。

自己判断で迎えに行くと、二次災害に遭う危険が。残されたペットも悲しい結果に。

## 非常袋のチェックリスト

※季節や災害によって必要なものが異なります。家庭に合わせてアレンジし、定期的に入れ替えよう。

- フード(3日分)
- 水(3日分)
- フード入れ
- 水入れ
- ペットのカルテ
- ワクチンの証明書
- ペットの写真
- 常備薬
- 包帯
- ペットシート
- ウンチ用ナイロン袋
- トイレ(携帯用)
- 猫用トイレの砂
- 犬用くつ(靴下)
- リード
- ケージ・キャリー
- バスタオル
- 消臭スプレー
- ウェットティッシュ
- ゴミ袋
- 新聞紙
- カイロ
- ドライシャンプー
- おもちゃ



## 不妊・去勢手術も検討

多くの犬・猫が狭い場所に集まると、手術を受けていない犬・猫はトラブルの元になりがち。妊娠やケンカ・咬傷事故などを防ぐため、動物救護施設等で手術を行う場合がある。その際に高齢だったり、持病があったりすると、麻酔のリスクが高くなる危険も。飼い主と離された犬・猫にとっても大きなストレスになりそう。

↓  
安心できる平常時に手術を済ませておきたい。はぐれた先で不幸な犬・猫の繁殖も防げる。

## しつけ

避難所ではケージ等に入れられるので、日頃からケージやクレート、キャリーバッグで静かに待てるようにしよう。特に犬は無駄吠えしないで待てるように。また他の犬・猫にも会わせ、家族以外の人間ともふれあいを持たせておくといい。食事は普段から甘やかさない。好き嫌いが多く避難所での生活は難しく、里親も探しにくくなる。

## 写真を用意

迷子になった犬・猫を探す際に役立つ。身体全体と顔のアップの両方を用意。

## ペット用の非常袋・カルテを用意

カルテは飼い主が世話をできないときに役立つ。一緒にに入れておこう。



## 健康管理

多数のペットが一括される避難所は病気の感染が広がるおそれも。定期的にワクチン接種やフィラリア予防をしておけば、伝染病感染を防ぐことができる。人間にもうつるノミ・ダニの駆除も必須。

飼い主とはぐれたときの大きな手がかりになる。いつ起きるか分からない災害に備え、室内飼いの犬・猫も首輪は外さないで。最近では「マイクロチップ」の体内への埋め込みが推奨されている。※マイクロチップ…直径約2mm、長さ約12mmの円筒形の電子標識器具。個体識別番号が記録され、飼い主と離ればなれになってもチップの番号をリーダーで読み取り、データベースに登録された情報と照合することで、飼い主のもとへ戻れる可能性が高くなる。またチップが入っているペットは殺処分されることもない。

# 心がけ みんなの 迷惑にならないために

避難所には動物の苦手な人やアレルギーのある人もいる